

(2015.8) 中学校教科書採択を 考える

育鵬社教科書は子どもたちの手に渡せない



今年度は、川崎市の中学校教科書の採択の年です。6、7月展示会（東門前小学校と教育文化会館）が開かれました。「日本の戦争は正しかった」と主張する育鵬社だけは「選んで欲しくない」との声が上がっています。

育鵬社の
「歴史」「公民」の教科書

育鵬社版の問題点をいくつか取り上げてみます

『歴史分野』—アジア・太平洋戦争は「自尊自衛」で日本軍の勝利は東アジアやインドの人々は独立への希望を強く抱いたと歴史事実を歪曲。

沖縄戦では、戦闘が激しくなり逃げ場を失い集団自決に追い込まれた人たちもいたと日本軍の関与には、一言もない。

天皇については、1ページにわたり「国民とともに歩んだ昭和天皇」を書き「戦闘の拡大を憂慮した」とか戦後すぐ国民を励まそうと巡幸し「国民から熱烈な歓迎を受けた」と天皇賛美。

『公民分野』—政府は、自衛隊は憲法9条に違反せず「同盟など密接な関係にある国の防衛を支援し協力する権利を集団的自衛権」ということまで書いている。戦争法案の先取りである。

原発については安定的に得られる利点があると。安倍政権政策宣伝パンフのように思えてきます。

育鵬社の採択率は4%、そのうち神奈川が43%(横浜。藤沢)今年は10%を目標にその中で今年は川崎がターゲットにされています。

昨年、川崎市内の高校が実教出版から強制的に育鵬社に変更させられる事例がありました。不当な政治介入させず公正な採択により子どもたちの手に正しい教科書を手渡ししましょう。

8月16日10時より川崎市総合教育センターで採択のための委員会が開かれます。私た

ちの子、孫を戦場に送るような教科書はゴメンです。多くの方の傍聴を呼びかけます。

元教師 佐々木勝男